

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて						
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等				
【話すこと・聞くこと】話の順序や中心に気を付けて話したり、話し手の意見に関心をもって、自分の意見との共通点や相違点を考えたりながら聞くこと。		【読むこと】各段落における必要な言葉に着目し、文章全体の構成を捉え、読み取った情報から自分の考えをもつこと。				
児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)			
第1学年 ・自分の考え方や意見を人前で話すことに抵抗がある児童が多い。ア ・言葉を文章としてとらえることがまだ苦手である。イ	・話型を示し、話しやすい内容で経験を積むようにさせる。 ・言葉一つ一つの意味を確認しながら、文章を読む経験を積むようにさせる。	通年				
第2学年 ・場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像することに課題がある。イ ・相手が伝えたいことを落とさないように集中して聞くことに課題がある。ア	・登場人物の行動を動作化したり、会話の口調を音読で表現したりしながら想像を膨らませるようにする。 ・互いに聞き合うことを楽しめる題材を提示したり、興味関心をもって聞ける話題を選ばせたりする。	通年				
第3学年 ・目的を意識して話題を決め、伝え合うために必要なことを選ぶことや、相手の話の中心を捉える力に課題がある。ア ・既習の漢字の定着に課題がある。ア	・相手意識目的意識をもてるよう話し合いの前に話題を再度確認させる。聞き手は、相手の意見を繰り返した上で感想を言うようにして話題を振り返られるようにする。 ・既習の漢字を使った熟語や文を作る機会を多く設ける。	通年				
第4学年 ・伝えたいことに関して集めた材料を比較したり分類したりして、伝えあうために必要な事柄を選ぶことに課題が見られる。ア ・語彙力が低く、文章理解が不十分なため、自分の考えをもつことができない様子が見られる。イ	・目的意識をもてるよう、活動のゴールを初めに明確にしておく。また、自分の考え方との共通点や相違点に着目させるようにする。 ・言葉調べを取り入れ、語彙を増やさせる。また、文章理解を促すために、音読や読書を積極的に取り入れる。	通年				
第5学年 ・文章全体の構成を捉えて要旨を把握することや、それに対して自分の考え方をもつことに課題が見られる。イ	・文章全体の構成を視覚的に捉えさせ、事実や筆者の主張を文末表現などに着目して丁寧に読み取らせる。	通年				
第6学年 ・自分の先入観や思い込みで考えてしまいがちなため、読み取る情報が歪みがちである。そのため、矛盾や不整合が生じ、文章全体の構成を捉えることに課題が見られる。イ ・語彙があまり豊富ではないため、文章の内容を理解することに課題が見られる。そのため、文章の構成を捉えた上で自分の考え方をもつことに課題が見られる。イ	・文章の必要な言葉に着目させ、叙述をもとに、事実としてまとめさせる。また、自分の考え方を入れて書くという手順を徹底することで、文章全体の「正しい」構成を捉えられるようにする。 ・文章を理解するために、音読の宿題や言葉調べを取り入れながら、語彙を増やさせる。 ・筆者の主張や接続詞を意識させる。また、初読の感想や学習感想、作文の時間を大切にし、自分の考え方を形成する時間を確保した上で、文章に書き表す活動を充実させる。	通年				
■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について					
ロイロノートを活用して、提出箱に児童の考え方を集約することで、一度に全員の考え方を共有する。また、複数の児童の考え方を比較しながら提示し、意図的な指名を工夫しながら、共通点・相違点について考えさせる。	児童の初発の感想から授業を構成していく、学習の流れを示し、見通しをもたせる。単元の終わりや、授業の終わりに学習感想を書き、次時の学習につなげる。					

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて				
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等		
児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手立て	手立ての実施時期	成果検証(2月)	
第1学年 ・日常の事象を具体的な場面を思い浮かべながら立式することが難しい。ア	・児童の生活場面を活用し、具体物を利用して立式する経験を積ませる。	通年 少人数指導		
第2学年 ・問題の場面や数量の関係に着目して計算の仕方を見出すことに課題がある。イ ・長さやかさの量感を十分に身に付けられていない。ア	・図に表したり、分かっていることと分からることを明確にしたりしながら問題の場面を把握させる。 ・長さやかさなどの量を実際に見たり触れたりして、実感をもてるようさせる。	通年 少人数指導		
第3学年 ・問題解決の方法を自分で根拠を基に説明することに課題がある。イ	・ヒントとなる図や絵を示し、説明することを意識付ける。考えを交流し、共有したりする時間を多く設ける。	通年 少人数指導		
第4学年 ・基礎的基本な数量や図形の性質を活用し、統合的発展的に考えることに課題が見られる。イ ・問題解決の方法を簡潔、明瞭、的確に表現することに課題がある。イ	・例題を通して、基礎的基本な数量や図形の性質の定着が図れるよう時間を設ける。 ・「まずは」、「そして」、「つまり（従って）」などの話型を提示することで、的確に表現できるようにさせる。	通年 少人数指導		
第5学年 ・問題解決の筋道を自分の中で整理し、事象を簡潔・明瞭・的確に表現することに課題がある。イ	・途中式や計算方法を残すことを意識するとともに、友達同士で共有の場を設けることで、様々な考え方や表現の仕方に触れられるようにする。	通年 少人数指導時		
第6学年 ・問題解決の筋道を自分の中で整理し、事象を簡潔・明瞭・的確に表現することに課題がある。イ  ・問題解決をするまでの知識が定着していないので、筋道を立てたり、発展的な問題を解いたりすることに課題がある。イ	・途中式や計算方法を残すことを意識するとともに、友達同士で共有の場を設けることで、様々な考え方や表現の仕方に触れられるようにする。  ・基礎基本を徹底し、関連している内容(単元)が分かるようなヒントを示す。	通年 少人数指導時		
■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について			
・ミライ・シードを使った復習・反復を行い、既習内容の定着を図る。 ・手元で図形を操作できるようにし、何度も確認できるようにする。 ・数直線や具体物等をタブレット上で示し、具体的なイメージをもって学習内容を確認させる。 ・ノートを写真に撮り、ロイロノートに提出することで、児童同士がお互いの考え方を共有したり、比較したりできるようにする。	・「めあて」「問題」「類題」「まとめ」「学習感想」の流れを全校で統一することで、6年間一貫した（永山スタイル）学習の流れを構築する。 ・授業の始めに必ず「めあて」を書き、本時の見通しをもたせる指導を継続してしていく。 ・授業の終わりに「学習感想」を書くことで、その日の課題に対する学びの深まりを実感することができるようになる。			

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
【観察・資料活用の技能】資料から内容を読み取るときに必要な情報を収集すること。	【社会的な思考力・判断力・表現力】社会的事象から学習の問題を見いだして追究・解決し、社会的事象の意味を考え、適切に判断すること。

児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年 ・資料から必要な情報を読み取ること、自分の考えに根拠をもって書くことに課題が見られる。イ	・児童に身近な問題の資料を扱うと共に読み取る視点を明確にする。分かったこと・考えたことをまとめる際には何が根拠かを考えさせる活動を多く取り入れる。	通年	
第4学年 ・資料から読み取ったことと社会的事象を関連付けて考えることに課題がある。イ	・学習したことと社会的事象を関連付けて紹介すること、そしてそれについて考える時間を確保する。	通年	
第5学年 ・資料を関連させて考えたり、社会的事象の相互の関連を得た知識を用いて考えたりする力にやや課題がある。イ	・既習事項を授業内容とつなげ、繰り返し社会的事象に関わる語句や内容を確認すると共に、知識を関連付けながら考える時間を確保する。	通年	
第6学年 ・必要な内容を精選した上で自分の意見を加え、再編成することに課題が見られる。イ ・与えられた資料から、課題解決のために必要な内容を精選する力に個人差が見られる。ア	・読み取る視点を明確にすること、及び事実と感想を分けて考えることを意識させながら取り組ませる。 ・目的に応じた資料の選び方を身に付けられるよう、授業の中で調べる時間を設け、資料から読み取ったことをまとめることを増やす。	通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
3年 タブレット端末や副読本を活用し、写真や動画等の資料を基に分かったことをまとめしていく。 4年 タブレット端末や副読本を活用し、資料から収集した情報を整理し、まとめしていく。 5年 タブレット端末や資料集を活用し、読み取った情報を分類・整理して話し合い、学びを深めていく。 6年 タブレット端末や資料集を活用し、調べたことを基にまとめを行い、話し合ったり発表したりして学びを深めていく。	3・4年 本時の学習の振り返りをノートに書き、学んだことを振り返る時間を設定する。単元の初めに学習の計画を立てることで、学ぶ内容と調べることについて見通しをもてるようになる。 5・6年 本時の学習の振り返りをノートに書かせ、学習問題に対してどこまで迫っているのか確かめ次時の学習課題を考える時間を設定する。 単元の初めに学習の計画を立てることで、学ぶ内容と調べることについて見通しをもてるようになる。

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて				
ア 知識及び技能		イ 思考力、判断力、表現力等		
	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手立て	手立ての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・自然の事物・現象の差異点や共通点を基に、「問題を見いだす」といった理科の考え方があ もてず、教科書や先取り学習の知識などを 考える児童が多数いることに課題がある。イ	・身の回りの物や素朴な疑問を導入から意識さ せる。生活経験や体験が足りていないものに 関しては導入で ICT や体験活動を取り入れ る。 ・実験課題とその結果のまとめる方法を授業の 中で考えさせる時間を設ける。	通年	
第4学年	・実験結果についてまとめることはできるが、 考察について自分の言葉で表現することに 課題がある。ア	・「実験結果から、問題に対してどのような結論 を導くことができるのか」「どうしてその結 論になると思ったのか」の 2 点について考察 を記述する時間を確保する。	通年	
第5学年	・実験結果と考察の差異が定着しておらず、実 験が自分の仮設を検証することとつながっ ていない。イ	・考察の仕方のテンプレートを作成し、それを 活用することで、どのように書けばよいか迷 っている児童への指標とする。	通年	
第6学年	・実験結果と考察の差異が定着しておらず、実 験が自分の仮設を検証することとつながっ ていない。イ ・既存の知識から仮説を立てたり、原因の説明 をしたりすることが苦手である。ア ・観察や実験について、見通しを立てたり、器 具を適切に扱ったりすることに課題がある。 イ	・考察の仕方のテンプレートを作成し、それを 活用することで、どのように書けばよいか迷 っている児童への指標とする。 ・問題→予想→方法→結果→考察という授業の 流れを確立し定着させる。また、その中で、 理科の用語や既習事項を用いて考えを表現 できるよう指導する。 ・観察や実験の手順を丁寧に確認しながら学習 を進める。	通年	
■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化的な充実に向けた一人一 台端末等 ICT の効果的な活用について		■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学び に向かう力」の育成に向けた取組について		
・一人一人が観察した物や観察した視点が分かるようにタブレットで撮 影し、観察したことを共有する。 ・タブレット端末で結果を記録し、結果の共通点や相違点などの細かい部 分をいつでも見返すことができるようとする。 ・予想や考察などをロイロノートに提出し、互いの考えを共有したり、自 分の考えの参考にしたりする。		3・4年	授業の最後にふり返りをノートやロイロノートに書き、新たな 疑問や課題についての思いを一人一人がもてるようにする。	
		5・6年	互いに考察の内容を共有し、物事に対する視野を広げていく。 また各学年の目標に沿った振り返りをノートに書き、次の時間 や単元で意識して取り組めるようにする。	